

# 会報 わかくさの風

No.20

## 社会福祉法人戸田わかくさ会

〒335-0021 埼玉県戸田市新曽1522-1 わかくさ内

Tel 048-432-8198 Fax 048-432-8298 <http://www.wakakusa-kai.com/>

4月1日、4月の始まりと共に新たな利用者、職員を迎え、新年度がスタートしました。そして桜の花も満開を迎え、美しさを十分満喫できる4月5日（金）、わかくさで合同入所式が開催されまし



### 戸田わかくさ会合同入所式 新たな仲間と共に

となりました。

今年度新しく入所された方は、わかくさ(就労継続支援B型)2名山岡佳奈さん、五十嵐琉斗さん、かがやき(就労移行支援)1名堀誠広さんです。当日はご都合により五十嵐さんは欠席となりましたが、2人の利用者の方と親御さんが出席されました。来賓には市長をはじめ市議会議長、後援会会長、福祉部長ほか10名の方々のご出席をいただき、お祝いの言葉を頂戴しました。特別支援学校を卒業して、新社会人となった2名の利用者も緊張感漂う雰囲気の中、立派な姿を見せてくれました。新入所者を代表して堀さんに今後の抱負と決意を述べてもらいましたが、一つひとつの言葉の中にも礼儀正しく丁寧な話しぶりに非常に好感が持てました。そして、会場では他の事業所からも利用者の代表が出席し、歓迎の意を表しました。

このような式典も何回か経験を重ねることにより利用者も場の雰囲気慣れ、式を作っているという気持ちがよく表れてきているようです。また、緊張した式の雰囲気の中にも利用者の仕草や話し

た。当日は新しい門出にふさわしく良い天気

ぶりにほのぼのとした暖かさを感じます。最後に、新入所者と出席者全員で集合写真を撮り、終了となりました。ご出席いただいた来賓の皆様、お忙しいところありがとうございました。そして、利用者のみなさん、ご苦勞様でした。入所式を無事に終え、新年度が始まってからあつという間に2週間が経ちました。入所当時は緊張していた様子の利用者も徐々に新しい生活に慣れてきてきたようです。他の利用者や職員とのコミュニケーションも増え、一緒に作業に取り組んだり仲間と共に楽しそうに日々過ごしています。今後様々な事に挑戦してもらい、活躍に期待したいと思います。

(わかくさ所長 鈴木)



↑新規利用者代表として挨拶をする堀さん

喜んでいよう、働くことをしつかり支えられる法人に  
感謝の気持ちを忘れずに！

人は関係の中で「働き」をする (5)

この広報が発行される頃には、すでに新元号が決まっております。新たな時代の幕開けです。2014年12月に法人化した法人は、戸田市をはじめ多くの方々に支えていただき、15周年を迎えることとなります。一つの大きな節目を迎える年でもあります。

今年には次期中長期計画の作成の時期になります。計画は利用者の願いを一步一步、実現するために、さらに安定した経営のために不可欠なものです。社会福祉法人としての主体性、独自性、創造性、柔軟性という特徴を活かしながら、利用者の希望、願いを実現していくような内容にしたいと思っております。そして職員が力を合わせてこの計画を着実に実行するよう頑張つてまいりますので、皆様方のお力添えを賜りますようお願い致します。

最近、感謝をすることが少ない。昨年、12月に開催した戸田わかくように感じております。お互いに感謝し合うという気持ちが薄らいでいるようです。

- ・ Kさん、畑のことを教えてくれてありがとうございます。
- ・ いつも配っている「ばど」を見てくれてありがとうございます。
- ・ ヘルパーさん、かがやきと一緒に来てくれてありがとうございます。
- ・ 駅前清掃の時、笑顔で挨拶してくれてありがとうございます。
- ・ ウォーキングの時に、挨拶してくれて、見守ってくれてありがとうございます。
- ・ 戸田環境整備事業協同組合さん、お仕事を一緒にしてくれてありがとうございます。
- ・ フラワーセンターさん、優しく厳しくお仕事を教えてくれてありがとうございます。
- ・ ファミリーマートさん、買い物のおきに優しく接してくれてありがとうございます。
- ・ こるぽにコーヒーを飲みに来てくれてありがとうございます。

た。

日頃からこのようにたくさん「ありがとう」の中で生活していることに「ハット」させられました。感謝は、人と人の関係を深めることに繋がります。感謝しながら生きることは、生きて行くための大きな力となります。この「ありがとう」の発表に、改めてこれまで法人を支えていただいた方々に「ありがとうございます」と感謝申し上げます。今後ともこの「ありがとう」の気持ちを忘れずに頑張つていければと思います。

(統括施設長 竹嶋 紘)



# 平成30年度 成人を祝う会

## ◆2名の成人者



戸田わかくさ会が平成31年成人を祝う会（土）に戸田市文化会館において厳かに、そして肅々と挙行され、また、式典では、新成

しそ文1人  
たして化月を  
。して会16祝  
。肅々館日（会  
と々にお（土）わ  
挙いてに）が  
行さ厳戸平  
されか田成  
まに、市31年

在籍今年度は、わかくさの方に  
が成人を迎えられる2名の出席  
された皆様から暖かく見守  
る中、戸田市長をはじめ  
来賓の方々からご芳情あ  
ふれる祝辞をいただきま  
した。また、式典では、新成

人のプロフィールの紹介や微笑ましく楽しいパフォーマンスのマジック等で心温まる式典を執り行うことができました。



## ◆輝かしい未来へ

20年新成人の皆様が過ごした  
この軌跡を振り返って、  
これまでに愛情深く育てられ  
たご両親や支えてくれた大  
勢の方々へ感謝の心を忘れ

ず、人との「絆」を大切に  
歩んでいただくことを願っ  
ています。  
20歳を迎え、大人の中  
間入りをして、独立した社会  
人として認められ、様々な  
権利を得るとともに、社会に  
対して、大きな義務と責任  
ある行動が求められます。  
周囲からの期待も大きく膨  
らみ、自覚した社会の一員  
として、精神的に大きく飛  
躍する重要な節目となりま  
す。  
みなさんの歩む道は、決  
して平坦な道ではないの  
かもしれません。日常生活  
においても様々な問題を抱え  
ながら日々を過ごしていま  
すが、みなさんのような若  
者の柔軟で斬新な「発想」  
と「行動」による未来に、  
無限の可能性が広がってい  
ます。  
高い志と熱い情熱を持つ  
て輝かしい未来へ羽ばたき、  
これから更なる進化を遂げ  
るため、みなさんの若い  
「力」を存分に発揮される  
ことを願っています。  
(かがやき所長 南雲)



## 平成30年度 障害児・者実践交流会 『幼児期から、親なき後までを見据えて』

平成30年12月16日、戸田市文化会館にて「障害児・者実践交流会」を開催しました。『幼児期から、親なき後までを見据えて』というテーマで、3つの年代毎の事例を通して障害児・者の支援について学びました。

### ◆願いに寄り添う

今回は戸田市内の5つの法人株式会社が共同で実行委員会を立ち上げ、企画・検討を重ねました。その中で、当事者の方が抱いている願いや希望に、私たち支援者はどうのように寄り添い、手助けできるのか、ということをごコンセプトとしました。

### ◆ライフステージでの実践

幼児期では、コペルプラス戸田公園教室の秋山さんが、「子どもの願いを叶える支援」として4人のお子さんの例を発表していただきました。豊富な教材



をテンポよく使用することで、気持ちの切り替えをスムーズに行うこと、いかに楽しく活動提供し、次への意欲に繋げていくか等の報告がされました。

学齢期では、すすすすすすつぷの大川さんが「希望とは何か?」として、すすすすつぷの活動の様子を通し、生きがいのある人生を送るためにどのような取り組みをされているか報告し

ていただきました。

成人期は、かがやきの山内さんが「充実した生活にむけて」として、余暇活動への取り組みを通し、作業への意欲向上・仕事と余暇の両立をしていくことで充実した生活に繋がってきていると報告してくださいました。

### ◆実践報告からの学び

参加者アンケートでは、「目的を持つことが大事、目的をしっかりと持って支援をしたい」「新たな気づきになり、力になる」というような意見がありました。支援者としては、なじみの薄い年代の実践を聞いた事、他事業所の支援のあり方や取り組みを聞くことで、改めて気づくことが出来、また新たな学びを得ることが出来ました。

幼児期、学齢期において、普段どのような支援を行っているか、また、その支援を次のライフステージにどう生かしていくかと考え、実践していく事が利用者一人ひとりの豊かな生活に向けた、切れ目のない支援に繋がると考えます。



この障害児・者実践交流会ですが、戸田市内の障害福祉の支援力の向上と事業所間の連携を深め、協働していくためのより緻密なネットワークの構築を目的として、今開催で5回目を迎えました。障害のある無しに関わらず、誰もが豊かに、希望する生活を送ることが出来る社会を目指すための学びの場となりますよう、今後も開催してまいります。今回、ご参加・ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(研修委員 上村)

# 各事業所の取り組み

## わかくさ

### 健康支援の取り組み

戸田わかくさ会の中で看護師が配置されているのはわかくさのみですが、法人の他の事業所にも大きな関わりがあると感じています。利用者の服薬、ちょっとした怪我等、また、体調不良の時の助言等、看護師は大忙しです。

そこで今回、わかくさにおける看護支援について看護師よりお伝えしたいと思います。

#### わかくさの医務室について

朝、2階の医務室のドアが開くと「今日お薬あるの」と笑顔が飛び込んできます。こちらでは看護師が昼食後、薬や非常時に対応を行っています。個室でゆっくりお話を聞き、また、元気に作業室に戻って頂く場所でもあり一日中たくさん利用があります。自身の体調不良を訴えることが困難な方が多くわかくさではすべての職員が「普段と違う様子」に気づき早

い対応を取る事が重要です。表情・言葉・しぐさ・身体の状態等、あれ？と思つたら即行動です。そういう対応にとっても助けられています。

また、年に一度採血やレントゲン撮影を含む出張集団検診や夏の熱中症・冬のインフルエンザ等感染症の予防対策などにより健康管理にも努めています。体重管理や皮膚管理も大切と考えます。ご家族のよくある心配事に、増えている最大の欲求であり制限はとも難しいですね。ですが、上手にマイナス10kgを実現された方もいらっしゃいます。少しずつ悩みを喜びに変えてはいかがでしょうか。



医務室では月に一度の嘱託医の訪問や、理学・作業療法士の協力も頂ながら、お一人おひとりが健康で今ある機能

を維持し、元気に楽しく過ごせることを目標に、笑顔の対応を心がけています。今後ともご協力お願いします。

(わかくさ看護師 岩瀬)

## ゆうゆう

### 新年度にあたって

#### 働くことについて

生産活動では、平成30年より和菓子にカップシューラー機を導入し、常温で日持ちのする水羊羹を販売することができました。

その後、水まんじゅうにもチャレンジしたのですが、製造工程の問題で日持ちするものができず、ちよつと苦戦しています。

5月にも新商品の発売を予定しています。美味しい商品を開発し、お客様に喜んでいただき、売上が上がる、そして利用者さんの給料が上がる、和菓子部門はこれを目指して新年度も頑張りたいと思います。

清掃部門では、新たなチャレンジはないですが、引き続きいた仕事の一つずつ丁寧に取り組

んでいきたいと思っています。暮らすことについて

自治会活動にも引き続き力を入れていきます。昨年度は利用者さんたちが企画した「ボーリング企画」が開催されました。今年度は何をやるのか？とワクワクした話し合いが始まりました。利用者のみなさんにとって、働くモチベーションになる楽しみを、利用者さん自身で作りに上げていきます。

#### 安心安全な施設運営について

ゆうゆうが開所したのが平成14年。もう17年目に入りました建物や設備も経年劣化が目立つようになってきました。設備の交換や建物の修繕も計画的に行って行きたいと思つています。

(ゆうゆう 浜田)



# かがやき

## 就労に向けた企業実習

### 就職をイメージした訓練

かがやきの就労移行では、「有限会社渡利商事」という一般企業で毎週金曜の午前中に職場訓練を行っています。

日々、就職するために、実際の作業に近い訓練を実施しているのは、企業雰囲気や体験するのは難しいことです。そこで、一般企業である渡利商事様に協力していただき、就職した時をイメージしながら訓練を行うようにしました。実習時間は短時間ですが、「企業を知る」という良い経験になっています。また、実際に渡利商事様へ就職した利用者もいます。実習を継続していた事で、不安なく就職へと繋がられました。



### 実際の取り組み

仕事の内容は、箱の組立、シール貼り、袋詰め等、軽作業を中心に行っています。渡利商事の社員の方々は、仕事の手順を利用者に分かりやすく説明をしてくれます。利用者も分からない時には、かがやきの職員ではなく、社員の方々に聞いています。何度も職場訓練に行っている利用者には、「仕事に慣れて来たね」と社員の方から声をかけてもらいます。職場訓練が終わると、達成感を得るようで「今日の作業は、最初は難しかったけど、少しずつ出来るようになってきました」「分からない事は社員さんに聞きました」と皆笑顔で話してくれています。

2年という限られた期間で就職を目指す就労移行の利用者にとって、施設外での職場訓練は働く意欲を高める場にもなっています。渡利商事様の協力のもと、今後も継続して行きたいと考えています。

(かがやき 松葉瀬)

## グリーンガラス

### 新年度グリーンガラスの取組

#### 三つの目標

今年度は、「平成」から「令和」へと時代が変わっていきますが、

グリーンガラスの暮らしも良い意味で少しずつ変わって行く必要があります。グリーンガラスでは今年度、3つの目標を重点項目としてあげています。

一つ目は、「新たなるグループホームの設置」です。昨年度、ゆうゆうでの家族会やわかばが主催する「親の5年後、子の5年後を考える」勉強会でグループホームについて学び合う機会がありました。ホームに対しての関心の高さと、親の元気な内に親がいなくなつた後の生活を組み立てておきたい強い思いを改めて痛感したところです。

今年度、秋に4名定員のホームの設置を目指します。今回のホームは比較的自立度の高い男性棟を考えています。このホームの設置により、次のステップのサテライト型同居（一人暮らしを目標に法人の借りたマンション等の居室で期限を持って生活する同居）を利用しながら、地域で暮らす基盤を構築していきます。

また、今回のホーム設置で終わりではなく、引き続き女性専用棟ホームも検討していきます。

二つ目は、サテライト同居入居者への支援の注力です。サテライト同居は先ほども述べたように、一人暮らしを目標としています。

一人暮らしをするにあたって、一人で出来ることを増やしていく必要はありますが、全てでなければいけないわけではありません。できることと難しいことを見極めながら、難しいことに対して外部の支援も含めてどのようなサポートができるか考えていきます。

三つ目は、入居者の加齢に対して支援や環境を整えていくことです。昨年度よりグリーンガラス下笹目の浴室のリフト設置にむけ、着々と準備を進めています。今年度の早期実用に向け、より力を注いでいきます。また、必要な方に対して、体操プログラムを用意し、機能維持を図っていますが、外部サービスなどの協力を頂きながら、専門的なケアが出来るよう取り組んでいきます。

今年度もグリーンガラスのキャッチフレーズでもある『ほっとできる家、自分で決めて自分でつくる暮らし』を大切にしながら、支援していききたいと思っています。

(グリーンガラス 松岡)



# ひかり・わかば

**障害を持つ方たちの地域生活を支える医療との関わりについて**

**かかりつけ医はありますか？**

作業所に通う知的障害のAさんは、いつも元気で滅多に風邪も引きません。病院で待つことや、慣れない場所で身体を触られたりすることが苦手なので、病院にはほとんど行かずに過ごしてきました。子どもの頃に小児専門病院に時々通っていましたが、学校を卒業して大人になり、いつしか通わなくなってきたそうです。中年期に差し掛かり、食べることが好きなAさんは健康診断で生活習慣病の心配が出て来ました。今後、定期的な受診が必要になるため、Aさんが不安なく通える病院を探すことになりました。言葉で説明することが難しく、環境に慣れるまでに時間がかかるAさんにとって、地域に馴染みの医療機関を持つことは今後にも大切です。Aさんに限らず、もし可能なら早いうちから、かかり

つけ医を見つけておけると、より安心して地域生活を送れるのではないかと、思う出来事でした。

## 医療的ケアの 必要な方の取り組み

地域で暮らす障害者の中には気管切開や経鼻経管栄養、人工呼吸器など医療的ケアを常時必要としながら生活している人たちもいます。専門病院で治療を終えて退院し自宅での生活を始める際、また、県内や都内の小児専門病院に定期的に通院していたお子さんが成人して地元の医療機関に移る際、医療体制の整った環境から離れることは、本人だけでなく、その生活を支える家族にとっても精神的不安や負担がとても大きいと感じます。医療的ケアが必要な方たちが地域でも不安なく安全に生活を送るために、医療を中心とした支援の仕組みづくりが必要とされています。その支援体制整備に向けた新たな国の取り組みが始まり、戸田市でも医療的ケアが必要な方た



ちの支援体制を整えていくための協議の場が設置されようとしています。相談支援の立場から、障害者の生活を支える地域医療について学び、より良い関わり方について一緒に考えていきたいと考えています。

(ひかり 高野・木澤)

# 戸田C・みなみ

## 就労に伴う生活支援

今年度は生活支援の視点をより大切に支援をしていきたいと思えます。みなみや就労支援センターでは就労支援だけではなく就労に伴う生活面の支援も行っています。また、事業計画の方針としても就労と生活を包括的に捉えた支援を掲げています。

就労支援機関としての生活支援は、職業生活を送る上で必要となる生活上の問題も支援の対象として捉え、相談者と一緒に解決に向けて取り組んでいます。支援の捉え方としては、就労支援と生活支援が単体として成り立つものではなく、相談者の生活全体を支える生活支援の一部領域として就労支

援があるものだと考えています。例えば、家族との悩みから不安を抱えて仕事に集中できない方に対して、職場内での集中できるような支援と一緒に考えても問題の根本は解決していきません。私たちもそうですが、生活面の安定がなければ安心して仕事を続ける事は難しいのではないのでしょうか。

## 生活者として

働くことは収入を得る事なので、働けない状況になれば経済的な問題が当然起き生活が困ってしまいます。また、障害のある相談者だけの問題ではなく、その方と一緒に生活する家族が困り事を抱えている場合には家族支援の視点が必要になることもあります。生活者としてその方の生活にも思いを寄せ、必要に応じて生活支援センター(相談支援事業所)等と連携しながら、生活を支え安心して働くことを支えていきたいと思えます。

(みなみ 酒井)



# 表現活動

「様々な素材との対話を重ねる」、そして...

先日、六本木の森美術館の企画展『六本木クロッシング2019 つないでみる』を観に行ってみました。多様な表現の在り方と考え方に刺激を受ける中で、興味深い作品解説に出会いました。

土屋信子さんという現代アーティストの作品解説には、「土屋は、様々な素材との対話を重ねるなかで、言語や知覚、身体感覚、経験、あるいは正確に定義付けのできないものによる決断の積み重ねとして、主にインスタレーションや彫刻作品を制作しています。そうした作品は、詩的な物語性、世界観を持ち、今までに見たことのない生命体のプロトタイプや未知の文明の都市のようにも見えます」と書かれています。

まず「様々な素材との対話を重ねる」という内面的で感覚的な行為をし、その後「言語や知覚、身体感覚、経験、あるいは正確に定義付けのできないものによる決断の積み重ねとして」作品を制作しているということ。

この現代アーティストの土屋信子さんの感性は、当法人にいる多

くの利用者の皆さんの表現活動に通じるものがあります。むしろ、人間の表現の根源にあるものだからこそ、土屋さんにも利用者の皆さんにも、共通していると思しき感受性が見出せるのではないのでしょうか。(わかくさ 清水)

## 平成31年度 主要人事

平成31年度の法人各事業所の主要人事は次のとおりです。

- ◆ 法人本部・事務
  - 統括施設長 竹嶋 紘
  - 事務長 吉川 洋一
  - 事務長補佐 小野寺陽子
- ◆ わかくさ
  - 所長 鈴木 利夫
  - 所長代理兼サービス管理責任者 石川 丈(新)
- ◆ ゆうゆう
  - 所長 浜田 知奈
  - サービス管理責任者 上村 喜紀(新)
- ◆ かがやき
  - 所長 南雲 雅雄
  - サービス管理責任者 石野 恵子

- ◆ グリーングラス
  - 管理者 竹嶋 紘
  - サービス管理責任者 松岡 沙奈江
- ◆ 戸田市障害者就労支援センター
  - 所長 竹嶋 紘(新)
- ◆ みなみ
  - 所長 酒井 正博
  - 主任 稲葉 かおり
- ◆ わかば
  - センター長 猪野 真由美
- ◆ ひかり
  - 所長 高野 永

● 平成31年度新規採用職員は次のとおりです。

- (平成31年4月1日発令)
- わかくさ 金田 海斗
  - わかくさ 穴井 市弥
  - ゆうゆう 田口 千沙
  - かがやき 井上 万里

平成31年度人事異動、また、新規採用職員4名を迎え、新たな顔ぶれで、みんなの願い、一人ひとりの願いを実現する事業を推進していきます。皆様の応援をお願いいたします。



### (編集後記)

新年度が始まり、新しい利用者、新しい職員も加わり、そして広報委員会も始動しました。広報委員会はホームページも担当しており、現在、全面リニューアルに向けて作業を進めています。フェイスブックやホームページを見て問い合わせをいただく方もいるので責任重大です。今年度も戸田わかくさ会のことをたくさんお伝えしていきたいと思います。

(酒井)

### (法人の運営する事業所)

わかくさ、福祉作業所ゆうゆう、福祉作業所かがやき、グリーングラス、障害者生活支援センターわかば、障害者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターみなみ、指定特定相談支援事業所ひかり



(ホームページはこちら)  
<http://www.wakakusa-kai.com/>

facebookもやっています

### 【発行】

社会福祉法人戸田わかくさ会  
〒335-0021 戸田市新曽1522-1  
TEL 048-432-8198 FAX 048-432-8298